

式辞 海洋高校が立地する当地、栗田の地では、十年に一度とも言われるほど、まれに見る厳しい冬が過ぎ、樹木の新芽が芽吹く、心までも暖まる春が訪れました。皆さんの入学を待っていた穏やかな栗田湾の海、そして教職員も、皆さんの入学を祝福しています。

本日ここに、令和五年度、京都府立海洋高等学校、入学式を挙行するにあたり、新入生を激励していただきますために、御多用の中、御来賓の皆様、そして保護者の皆様、多数の皆様の御臨席を賜り、高段からではございますが、心よりお礼申し上げます。

さて、ただ今、入学を許可しました八十二名の新入生の皆さん、御入学おめでとう。

皆さんは、九年間の義務教育を終え、思い続けてきた夢を叶えることを目標に本校を志願し、自分との戦いでもあった厳しい受検勉強や選抜試験を経て、目的意識を携え、海洋高校生としての第一歩を踏み出しました。

昨年度まで、コロナの影響を受け、皆さんも中学校でさまざまに影響を受けてこられたと思いますが、いよいよアフターコロナの始まりが来たと言えます。

私たちには、今後コロナ以外の、別の困難な事象に直面するときに来るかもしれません。海洋高校では、どんな社会になっても活躍していける力を身に付けられるよう取り組んでまいります。例えば、研究活動のように、答えのない、自らが納得解を導き出す探究学習などが一例であります。

本校は、明治三十二年に京都府水産講習所として創立され、今年で百二十六年目を迎える伝統校であります。また、近畿地方で唯一、教科「水産」を履修する専門学科単独の水産・海洋系高校で、平成二年に、全国に先駆けて校名を海洋に改め、海と直結する恵まれたロケーションも生かしながら、地域の未来を拓く水産・海洋のスペシャリストや、社会の進展を牽引する有為な人材の育成に取り組んでまいりました。

この三月に卒業した多くの生徒は、京都府北部地域に就職しましたが、特に当地域は人材不足で、海洋高校卒業生が、府北部地域で活躍することを、各界から期待していただいています。皆さんも、京都府北部の自然や産業、生業を立てる人々など、当地域が持つ恵まれた環境や資源と、研究活動等を通じて交流を深め、関心や展望を持っていただけたら幸いです。

創立以来八千四百二名の同窓生は、水産・海洋分野を中心とする幅広い分野で活躍されています。これから皆さんの先輩となる二・三年生の生徒たちも、その伝統や実績に支えられながら、日々心と技を鍛錬し、充実した高校生活を送っています。

進路の実現等だけでなく、例えば部活動でも、この春休み三月に石川県で開催された全国高等学校ウエイトリフティング競技選抜大会では、男子五十五㍻級（大会新）と八十一㍻級（高校新）でトータル優勝、女子五十五㍻級でもジュニア日本新・高校新でトータル優勝（二連覇）、この他六十七㍻級でも六位入賞と、素晴らしい成果を収めています。レスリング部でも、十七歳以下の部で女子一名が全国大会での優勝を果たしています。「海洋高校入学後から始めた種目で、二年生で大会新記録で優勝」が実現しており、海洋高校には、新しい自分に出会えるチャンスが豊富に用意されています。

その他の部活動でも、京都府、近畿、全国、世界へと活躍の範囲を拡大させています。ここで、新入生の皆さんが、本校で確かな成長を遂げることを願い、大切にしてほしいことわざを紹介します。

『聞くは一時の恥、聞かぬは一生の恥』です。この言葉の意味は、知らないことを人に聞くのは、ほんの一時の恥で済むけれども、聞かないでいれば、タイミングを逃してしま

い、知らないままに一生恥ずかしい思いをして過ごすことになる。知らないことは恥ずかしがらずに、迷わず積極的に質問した方が身のためだということです。

言い換えますと、少しの勇気で起こす行動が、チャンスをつかむことに繋がるということになります。

これから皆さんが取り組む海洋高校での活動には、国語・社会・数学・理科・英語などの普通科の学習に加え、中学校までに触れることのなかった実習船「みずなぎ」を始めとする充実した施設設備を生かした水産・海洋の学習、研究や探究の活動、幅広い分野の資格取得、部活動、ボランティア活動、生徒会などの委員会活動、図書館活動、学校外での体験実習、そして希望進路の獲得などなど、将来へのキャリアにつながる、一人一人が主役のさまざまな取組や環境、即ちチャンスが、豊富に用意されています。

仲間や先生との出会いも大切にしながら、どうか貪欲に、決して遠慮したり、戸惑ったりすることなく、勇気を持ってこれらのチャンスを逃さず、厳しいことにも果敢に挑戦し、人生をより良い方向に変える三年間にしていただきたいと思います。

高校の三年間は一生に一度だけで、どのように幸せな生活を送ることができるかを左右する、大変大切な期間です。長いように思われているかもしれませんが、卒業していった先輩方は、口をそろえて「あつという間だった。」と言われます。

今日から、皆さんとともにお互いを高め合い、卒業する時に、海洋高校で学んでよかったと思える高校生活、そして成長を感じることができましたら幸いです。

後になりましたが、今日の喜びの日を迎えるにあたり、お子様の成長を温かく見守り、支えてこられました新入生の保護者等の皆様、本日のお子様の御入学、誠におめでとうございます。

高校生となられたお子様の姿をご覧になり、期待を高められ、感慨もひとしおであろうと拝察いたします。

今年度は、五十六もの中学校から八十二人がこの場に集いました。うち半数以上は、京都府南部又は他府県の中学校の出身者で、多くの人が初めて親元を離れましたし、朝早くからの移動を伴う遠距離通学となる生徒も多くいます。水産・海洋の分野に熱い思いと期待を携え、わざわざ京都海洋高校を選んでもらえたことに、深く感謝するとともに責任の重さと使命感を感じております。

昨今の社会情勢を踏まえますと、高校生が、心身ともに健やかな成長を遂げるためには、乗り越えなければならぬ多くの試練が、必ずあります。試練を克服するためには、家庭と学校が深く連携し、信頼し合える関係を保つこと、すなわち、教職員と御臨席の皆様が協力してお子様の成長を促すことが必要となります。

どうか、海洋高校の教育活動に御理解並びに御協力を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

結びに、私ども教職員一同は、皆様の思いに応えるため、そしてお子様が、人生百年時代に、将来にわたり、より幸せな人生を歩んでもらえるよう、卒業式の日を目標に、より一層、教育活動を充実させ、誠心誠意、全身全霊を捧げて支援していく決意でございます。以上、新入生の皆さんが満足でき、充実した高校生活を送ってもらうことを、強い思いで願い式辞といたします。

令和五年四月十一日

京都府立海洋高等学校 校長 上林 秋男